

ACPF 広島支部講演会（2023年12月4日）

「G7 広島サミットの開催と今後の広島県の発展に向けて」¹

湯崎 英彦 氏（広島県知事）

広島県知事でございます。

本日は、このような機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

とは言いましても、これまで色々なところで話しておりますので、既にお聴きの方がいらっしゃるかと思いますが、その方々にとってはほぼ同じ内容になりますので、ご容赦いただきたいと思います。

広島サミットの話ですから、既に半年以上経っているわけですが、今でもこのインパクトが続いているところがあり、その辺りも含めてお話ししたいと思います。

写真が意味するもの



まず、この写真をご覧になって何かお気づきになることありませんか？

この写真は、サミットの「G7 HIROSHIMA」というものですが、人が写っていないですよ。実はゼレンスキー大統領が来られるまでの間、私、随分と待っていたのですが、その間、もう完全に全部人がいない状況になっていて、トコトコと外に出てパチ

リと撮ったものです。このサミットの期間中も含めてですね、このように人が全くいなかったということは、ほとんどありませんでした。これからもおそらく永遠に、このような昼間の時間帯に平和公園にこのように人が全くいないというのはないわけです。おそらく今後あり得ないという意味で、非常に貴重な写真じゃないかと思っています。この写真一つを取り上げてみても、こういう特殊なことが、あのサミットではいろいろ起きたというわけでございます。

サミットの概要

ご承知のとおり、2023年5月19日から21日までの3日間で行われました。伊勢志摩サミットは2日間でした。その意味では、ゆったりとした日程でした。にもかかわらず、相当タイトなスケジュールリングになっておりまして、首脳の方々にとっては、本当に大変



¹ 本稿は、山下輝年（ACPF 副理事長兼事務局長）が講演を聴いた結果をとりまとめた抄録であり、特に「小見出し」は山下の判断で付したものです。

なサミットだったと思います。

会場はご承知のとおり、あのプリンスです（グランドプリンスホテル広島）。

この写真の角の部屋も、今行けば皆さんもここに立てますが、これもある意味で、すごく大胆でして、もう会議の場所はここしかないという所です。ここしかないとなると狙われ易くもあるわけですが、日本の警備陣もやっぱりすごいなと今改めて感じます。

今回のサミットの特徴は、場所がリゾート地ではないということも言えるかと思えます。最近のサミットと言えば、大体会場がリゾート地ですが、それは規制し易いからです。つまり周りにあまり人がいないということなのです。

サミットのテーマと開催地というのは、通常は関係がないのですが、今回は平和というのが非常に大きなテーマです。この平和都市である広島で行われたというのは、テーマと密接な関係があるということで稀有なこととして、そういう意味では非常に歴史的なサミットであったと思っております。

外交上の成果は大

今回、外務省は、本当になんて言いますか、すごく上出来だったと思います。上から目線のように聞こえるかもしれませんが、上出来というか、すごかった。それはなぜかという、今回のゼレンスキー大統領、そしてブラジルとインドからも来られた。ゼレンスキー大統領とブラ

ジル大統領、インドのモディ首相を会わせる機会を作ったのです。グローバルサウスとの関係でいえば、ゼレンスキー大統領にとっては、グローバルサウスの支持が十分得られていなかったわけです。それをこの場でお膳立てをした。結果としてブラジル大統領はゼレンスキー大統領と会わなかったのですが、お膳立てをしたというのは外交上最高のものができたのではないかなと思います。

いろんな武器の貢献とかは、ヨーロッパとかアメリカとかがしています。日本はそういうわけにいきません。そういう中でこの外交上の貢献は、非常に大きいわけです。しかもインドはロシアに近いわけですが、そのインドから、しっかりとウクライナへの支援・支持という言葉を引き出しました。ロシアに対しては、プーチン大統領に今は戦争の時ではないというのを、はっきりさせたという点は

G7広島サミットの概要(開催概要)



■ 日付

2023年5月19日(金)~21日(日)

■ 開催地

広島市内

◎首脳会議場

:グランドプリンスホテル広島

◎国際メディアセンター

:広島県立総合体育館



G7首脳による広島平和記念資料館訪問



岸田総理から展示について説明、被爆者・小倉桂子さんと対話、最後に芳名録に記帳



G7各国と欧州連合、そして、インド、ブラジル、インドネシアなどグローバルサウスの国々、さらに、国際連合等の国際機関との協力と連携を再確認



あるわけです。こういう関係を作ったというのは、いずれ回顧したときにはすごい大きな得点だったと思います。そういうことが皆さんあまり意識されないのです。岸田総理の支持率が下がってきてもったいないのですが、このように外交上の得点を取られた総理というのは久々じゃないか、中曽根さんに匹敵する外交得点ではないかなと思います。

あと、余談ですが、色々な機関がここに集っておりますが、それぞれ肩書きの呼び名が違ってまして、ある機関はディレクター・ジェネラル、別の機関はセクレタリー・ジェネラル、またマネージャーというような肩書きもあって、資料館の前で挨拶するのですが、これが一苦勞でした。しかし、とても多くの皆さんに来ていただきました。

広島からゼレンスキー大統領へ「二つのメッセージ」

そういう中で、非常に大きな注目を集めたのは、ゼレンスキー大統領の内報でありまして、我々広島としては、ゼレンスキー大統領が来たら、やはり復興に対する希望というのを持ってほしいというのが、広島県としては思っていました。実際にゼレンスキー大統領が来られて資料館でお迎えをしたのですが、その時に少しお話をする機会があり、次のように申しました。



広島にはメッセージが二つあります。

一つはその戦争というのは、究極に行き着くもので、それが原爆による破壊で分かる。もう一つは平和があれば、今のこの広島のような復興を果たすことができる。つまり平和があれば繁栄を築くことができる。この二つが非常に重要なメッセージです。必ず復興できます。

こういうことを、資料館に入る前に申し上げたのです。その時はで、ゼレンスキー大統領は、少々きょとんとした気もそぞろみたいな感じで、私が言っていることが十分に染み込んでいる印象ではありませんでした。ところが資料館を回った後で、記者会見でその何を言われたかという、

「広島原爆を受けた様子を見て、バフムトをやはり思い起こした」と言われました。当時、バフムトは一番戦闘が激しく、破壊も進んでいたからだと思えます。それから、

「必ず我々はバフムトを含めて、広島のように復興させていくんだ」

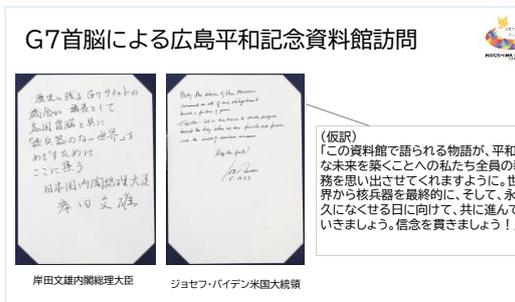
ということを言われたのです。まさにその二つのメッセージですね。「あ、やっぱりちゃんと資料館を回って、それをまあどういう意味なのかというのを受け止めていただいた」と感じました。こうやって資料館、それから参拝もしていただきました。

この写真は、私が彼の中 G7 のメンバーの一人かのように写っていますね。NHK の生放送で出ていたのですが、その後のニュースではこの絵柄はもう出なくなりました。ということで、これは貴重な写真になります、はい。資料館を訪問して、ご存知のとおり、被爆者の小倉桂子さんの話を英語で聞かれたということです。

平和記念公園行事



バイデン大統領の芳名録



もちろん皆さんに芳名録にサインをしていただきました。皆さんそれぞれいろいろ書いていただきました。当然のことですが、首脳の方々は、公式行事で何でも好きな発言を書くというわけないので、これはおそらく事前にあるという相談をして書かれたことではあるのですが、私はですね、この「Keep the faith!」、バイデン大統領がこれだけ行を変えて書かれているのです。これは

やはりバイデン大統領が自身で訪問した際の素直な感想だと思うわけです。この Keep the faith を日本語で「信念を貫きましょう」と訳しましたが、これを見て彼は硬く成し遂げなければいけないというのを強く感じて、それが発露したのがこの言葉だと思います。ここまではたぶん事前の用意はなかったと思います。行が違うことからして、個人それぞれの思いというか、事前に用意したものだけではなく、自分がその時感じたものをアレンジしたもの、そのような思いが入っていたと思うのです。

資料館に行って、小倉さんの話を聞いて、やはり個人的にかなりのインパクトを受けていらっしやったようです。実は、その後、サミットの議論が始まったのですが、そこでの議論というのは、そのサミットの話聞いていた人によると、明らかに影響があったということでした、いろんな立場はありますけれども、その個人の思いとかはやはり止められない。そういうインパクトを与えていくということが、広島に非常に重要な役割であるというふうに、私は改めて思った次第です。また、こうやって献花をしていただきました。

G7首脳による原爆死没者慰霊碑への参拝・献花



日韓共同で原爆被害者慰霊碑へ献花

もう一つ非常に歴史的だったのは、やはりユン大統領が来られて、韓国人被爆者慰霊碑に献花をされたということです。これ、総理も一緒にされたわけですし、日韓の首脳がこうやって、日本の被爆地で韓国人の慰霊碑に献花をすると、これはもう二重の意味ですごいことです。韓国は、基本的には日本は加害者であって、被害者であるということは、彼らの感情からいくとあまり許せない。実際の問題として、韓国人がその広島に来られる数少ないですし、資料館に来られる数もそんなに多くないと思います。しかし、この広島に来て、原爆被害者の慰霊碑に献花し、今度は総理が韓国人被爆者にこう参拝をして花を手向けたということも、これまでの日韓関係だとなかなか難しかったことだと思いますが、今回、こうやってお2人並んで、これも非常に歴史的なことだと思います。



あとガンジーさんの像ができて、モディさんが来られました。平和公園の外側に設置されたものですが、その除幕式の時にインドの方が多数集まって、「モーディ、モーディ」とモディコールが起きました。モディ大統領の人気ぶりがうかがえたわけですが、実はこのお陰で、インドの方が多数広島を訪問してくれました。宮島にもインドの方がすごくいっぱい立って、そういう時期もありました。まあ、そのような効果もあるわけです。

サミットの成果

肝心のサミットの成果というのはいろいろあります。いろんな声明が発表されたりしているのですが、「広島ビジョン」というのがあります。これはメディアではずいぶん批判されたのですが、今回、あの核軍縮に特化した G7 首脳の記事というのは、これ歴史上初めて出てきたものであります。ここで大事なものは、核兵器のない世界という究極の目標に向けて、この G7 の首脳が合意をしたということです。核兵器の廃絶について明確に合意をして、それを文章にしたことが、非常に大きなことなのです。

ところが、この批判というのは、「それが存在する限りにおいて防衛目的のために役割を果たして侵略を抑止し、戦争及び

核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン

(抜粋)
素然として来し方を振り返るこの時に
いて、我々は、核軍縮に特に焦点を当てた
この初のG7首脳文書において、**全ての者
にとっての安全が損なわれない形で核
兵器のない世界の実現に向けた我々のコ
ミットメントを再確認する。**

(略)
我々の安全保障政策は、核兵器は、それ
が存在する限りにおいて、防衛目的のた
めに役割を果たし、侵略を抑止し、並びに
戦争及び威圧を防止すべきとの理解に基
づいている。

利圧を防止すべきで」、と核抑止のことが書いてあるわけですよ。これで核抑止を肯定しているというように大きな批判になっているのです。

ただ、これよく読んでいただくと、それが存在する限りにおいて、その役割はこういうものだということであって、つまり、役割を限定するという趣旨で書いていたのです。つまり攻撃的な兵器としては使うわけではないですよということでありまして、その核抑止が平和を守っているというより、積極的なことを言っているわけでもないのです。ただ、現状をそのまま核兵器はあるわけですから、それがその役割としては、戦争を抑止する、あるいはその防衛のための役割にするということを行っているのです。こういう前提はありながら、最終的には廃絶するということを謳ったのは、今の歴史の中では非常に重要なことだと思います。

というのも、実際、ロシアの問題、北朝鮮の問題で、韓国においても韓国自身が核兵器を持つべきだという非常に強い世論があります。いわゆるヨーロッパにあるような核共有をすべきではないかと、アメリカにも主張したりしているわけです。ヨーロッパでもその核共有を強化するってというようなことが言われたりしているわけでありまして、そういうどちらかというともっと核兵器を強化しようという流れにある中で、いやいや、やはり最終的には核兵器はなくさなければいけないということを、この時点で合意するというのは、そういう意味で非常に重要なことだという私は思うのですが、なかなかそうはならない。この意味するところを解説するというような、考える会というのが行われるみたいですが、具体的に実際どう変えているかというのを吟味することですね。批判されているというのは、ちょっと残念なことかなと思いました。そういう G7 の中で、広島の魅力にも触れていただいて、宮島にも行っていただきました。

天候に恵まれたサミット

岸田総理は本当に「晴れ男」なのです。首脳が到着した時には大雨でした。平和公園に首脳がその一人一人到着した時も雨が降っていた。ところが、資料館を回っている間に雨は止んだ。献花の時にはもう傘は出してないのです。雨は上がりました。さらに、夕方、宮島に行ったのですが、なんと神々しい夕日が差ししてくるという状況でした。こんな状態で写真を撮った後、ここから舞台から廊下みたいになっている所を歩いたときに、またパーッとこの夕日が差ししてきました。それを見ても、同行していたメディアがもう色めき立ちまして、こんな素晴らしいものは他にはないと言って、夢中になってバシャバシャバシャバシャバシャと写真を撮ったり、映像を撮ったりされていました。その写真が世に出ていないのが不思議なのですが、宝のように持っているのかと思います。

パートナーの皆さんも、あの宮島エンジョイをしていただきました。美しいこの朱色の御殿と、それから緑の山ですね。このコントラスト、そしてこの美しいオレンジの衣装、本当にいわゆる映える笑顔だったと思います。

お好み焼きも召し上がっていただいて、大統領の奥様が一番遠くまで出かけられた方だと思います。実際、いろんなイレギュラーの動きがいろいろあって、食事を楽し

んでいただきました。

こういう食材ね、すごく今売れています、おかげさまで。

首脳の方々の食事は毎食のことですし、何度も試食を繰り返したわけで、実際のメニュー作りは大変だったようです。いろんなお菓子も出ていますし、お酒も出させていただきました。これだけ出されたっていうのもすごい宣伝になっています。やっぱり出たものは飛ぶように売れているようです。非常に嬉しいことでした、お土産もいろいろ用意をされていました。贈呈品としては、県民会議からは文化勲章受章者の今井政之先生による花瓶が贈られました。モチーフは海老ですが、これは「腰が曲がるまで平和を」という意味が込められています。

数字で見るサミットの規模

サミットは、どのような規模かと言いますと、予算で 110 億円強です。広島市で 36 億ぐらい、合計 150 億円ぐらい予算を使いました。国の予算は 400 億円です。我々に対する補助も入っています。外相会合だと 5 億円ぐらいですから、二桁違う。たった 9 人の会合に 500 億っていうのはやはりすごいですね。それだけ、インパクトたるや、まあ非常に大きいものがあるわけです。

どこにお金がかかっているかという、警察 2 万 4000 人、うち 3000 人ぐらいは広島県警備員ですが、全国から来られました。そこで、これまでありえない現象が起きたのですが、私の車は北海道警が先導しましたが、なぜか移動している時に、多くの人が写真を撮っているわけです。何を撮っているかという、広島に北海道警のパトカーがいるっていうことがありえないということでした。確かにこんな光景は二度とないなという風に思いました。

消防士 1800 名とか、海上保安庁、自衛隊も後ろでしっかりと控えており、中に入ってくる船をしっかりと見ているということでした。それから弁当は 40 万食、宿泊は延べ 38 万です。この規模を整えるだけでも相当大変なわけでした、これぐらい人手をかけてやる会合ということ。ドローン条例を作ってドローン規制をしました。

また、首脳が宮島に行った時ですが、宮島も日中、晴れている時に誰もいない、鹿しかいないというのは、多分今後二度とないと思います。規制を解除した途端にもう皆さんいっぱい来られて大変な状況でありました。

交通規制のですね。たくさん行われて皆さんいろいろご不便をおかけして、マツダさんや他の企業にも操業を止めていただきましたし、本当に皆さんのおかげです。世界中からメディアも来まして、世界中に発信をしてもらえました。被爆者の証言もですね、実は外相会合の時に被爆者証言を準備しましたが、今回はすごい多くの皆さんにお話を聞いていただきまして、これも大きなインパクトになったと思います。

また、広島のに、もうほっぺを落としながら、メロメロになっていました。これ



も非常に大きなインパクトになったと思います。

サミットの成果と波及効果

サミットを終えて、いろんな方からいろんな声をいただきましたが、「よかったなあ、よかったなあ」という声がほとんどです。地元の方々も。大変不便をおかけしましたが、「円滑にできてよかったなと充実感のほうがまさっています」とおっしゃっていただきました。事業者の皆さんも、「困ったけど、まあ今後に期待する」とかですね、「よかったなあ」とおっしゃっていただいているので、これも目的達成だと思います。

経済波及効果は非常に大きなものがありまして、1200億円に上ります。県内は725億円、県外は490億円で、広島市が最も大きいのですが、県内はその他の地域150億円ぐらいで、そういう意味では全県的に幅広く経済効果が生まれたと思います。それだけではなくて、メディアに露出した件数というのを金額に換算しますと8800億円ぐらいです。つまり、これぐらいその広島の宣伝を世界にしてもらえたということで、相当な広島宣伝効果とかがあったと思います。さらに、今後の波及効果としては、観光客の増加を見込んで考えると、1600億円ぐらい効果があるだろうという計算をしています。我々のメッセージ、平和のメッセージも大きく出ていたし、広島の魅力も先ほどメディア通じて、これはG7そのもののニュースもありますから、効果が非常にあったわけで、皆さんにもあの評価をしてもらえたと思います。

まとめ—今後への期待

平和という観点から言うと、次の世代にレガシーを残していくということが非常に重要だと思っています。若者たちのピースキャラバンや、G7の各国に高校生、大学生、大学院生を派遣して、現地の若者とこのサミットの成果について議論してもらおうということをやりました。これも非常に良かったというふうに聞いています。こんな感じで、ロンドン、パリとかフィードバックがなされていますが、例えば、フランスの若者からは、世界の現在の世界情勢を踏まえて、核抑止論を支持する声もあるから、多くの若者は核兵器を持つと戦争が起こりやすくなる核兵器、核兵器廃絶を願っているとか、そんな声もいただいているというところでもあります。

観光客も大幅に増えています。6月以降の数字ですけども、コロナ前と比べても宮島の来島者が105%、資料館も105%、外国人だけみると123%ということで、非常に増えています。今後、サミットで使われた食事をめぐるツアーだとか。要人が訪れた場所とか、あるいはもう一回海外メディアに向けてツアーに来てもらったりして、それをまた改めて発信をしてもらおうということをして今後やっていきたいというふうに思っております。

初めて被爆地で開催されたサミットでもあり、開催地と開催地のメッセージと会議のメッセージが一致するという、おそらく今後もないサミットで実際にこの世界に向けて平和のメッセージを発信できたサミットであり、本当に歴史的なサミットだったと思います。これが実現できたのも、県民市民の皆さんの多大なるご協力があったからこそだというふうに思っております。そのご協力というのは、いろんな不便を我慢

していただくということもありましたし、あとは非常に温かくおもてなしをしてもらえました。これは首脳だけではなくて、県に来ている警察官の皆さんなどにも、とても温かく接していただきました。警察官の皆さんも、本当にありがとうと言って帰ってもらい、感動して帰っていったということです。そういうことでサービス業関係者からも非常に高い評価を受けております。広島への注目度も、うまく資産として生かしながら、改めてこの広島の発展に尽くしていきたいというふうに考えております。まだまだいろんな情報がウェブサイトに乗っておりますので、是非ご覧いただきたく、よろしく申し上げます。(了)